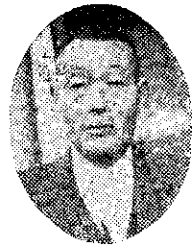


報 廣 ま っ だ い

昭和43年1月10日発行
第120号
東頸城郡松代町公民館
館長 富 沢 清 次
電 話 松 代 6 番
印刷 松代印刷所

年 頭 の 辞



松代町長 柳 幡 蔵

皆さん、新年おめでとうござい
ます。いうまでもなく新しい年を迎え
ますと、すべてのものが皆新しく
なった様な感じがいたします。

すべて新しい物、美しい物には
必ず楽しい喜ばしい表情が伴いま
す。松竹は千戸を飾り、旭旗は万
戸にひるがえり、瑞雲たなびき、
和気洋洋として人は平和を謳歌し
ております。われわれ幸にして皆
さんと共に新らしき年を迎えるこ
とを得ました喜びは、何とも言語
に尽せません。

旧年中は皆さんの多大な御協力
によって大過なく新年を迎え、此
処に決意を新たにご期待にそいた
いと存じます。改めて深く感謝申
し上げると共に、更に一段のご支
援をお願い申し上げます。

一年の計は元旦にありと申しま
す。この機においてお互に大いに
内省し、楽しい嬉しい中にも深く
思をめぐらせて、今後の方針をき
めなければならぬと思ひます。
そしておたがい相より、相助けて
真に力一ぱい自分の職分に努力し
住みよい社会建設のため、この新
鋭の気を一年の間持ち続けたいも
のであります。

希望の輝く新年を祝福し、皆さ



松代町教育長 富 沢 清 次

んの万福を祈念し、一言もって年
頭の祝辞といたします。

富 沢 清 次

新年お芽出とうございます。
年々歳々水の流れる如く絶え間な
く過ぎて行く月日の中に、特に新
年とか、元旦とか、あるいは正月
とかいってお互いにお芽出たいと
いう、初日と称しても、別に五色
の光がさすわけでもありません。
一休禅師の言葉を拝借すれば、正
月は芽出たくもあり、芽出たくも
なくなります。しかし私はやはり
素直な気持で正月を芽出たく迎え
たいと思ひます。

整理するものは整理して、改つ
た気分で年を迎えることは、また
格別のよさがあります。
いただいた年賀状を一枚一枚眺
めて、旧知の誰が今どこにいる、
元氣らしいと、その人の顔を、思
い浮べることも、正月の楽しみの
一つです。

さて去年は、室野の教員住宅新
築、孟地校の寄宿舎改築等の工事
があったが、お陰様で一応滞りな
く竣工してもらいました。ところ
で今年も、去年と比較にならぬ大
工事、松代小学校が皆様方のお力
によって、年来の希望が認められ
新築の運びになりましたことは、

誠に喜ばしい限りであります。あ
の高台に堂々たる三階建、鉄筋コ
ンクリートの近代的校舎が建設さ
れたらどんなに壯観であろうか、
どんなに子供達が喜ぶことだろう
か等思うと、私は子供のように身
振いがします。しかし建築費の問
題、工事の問題、授業の問題等、
どれ一つ捨って見ても大変なこと
で、芽出たく竣工される日を心か
ら念願してやみません。

柳俊作村長さんの時代に建てら
れて明治四十三年以来五十八年間
立っていたあの旧校舎、私達も勉
強させてもらった思い出の校舎が
この四月取りこわされるとなると
無心の旧校舎が特になつかしく眺
められます。

出稼ぎされた方も久し振りで楽
しき我が家でお年をとられ、やが
てまた勤め先きにお帰りになられ
ることでしょうが、どうぞお元氣
でお勤め下さい。各学校ではお子
様方の文集を差上げることと思ひ
ますが、皆様方も御多忙でも時折
り、お子様方にお便りを下さい。
親を思い、家を思うことが何より
郷土の発展につらなります。立派
な校舎が出来ても、設備がよくな
っても、教育された子供がよくな
らなければ価値がありません。

我が国の経済復興は実にすばら
しいものがあるが、精神復興はこ
れからだという感じがします。
私達の最もやすらぎの場であり、
精神安息の場である家庭の在り方
一つ拾って見ても問題がいろいろ
あって困っている家庭が相当ある
と思ひます。そこで私は年頭にあ
たって精神復興はまず家庭からと
いう意味で、今年には家庭教育の振
興されることを心から祈念するも
のであります。

出機の仕事は最も盛り

お母さんの副業の
一つの型か

先般行なわれた町内総合文化祭の折公開された松代町の出バタは深雪地の、しかも単作農業型といわれる当町の一つの副業として大きな話題をよんでいます。

町内出機は十年程前に海老部落で初められ、順次犬伏、孟地方面に及んで盛んになってきました。冬期間の内職として何か適当なものはないかとお母さん方の願いから十日町のある織物工場にすゝめられ、初めたものだということ

です。十日町方面の出機は盛んで、殆どどの農家がこれを取上げている様ですが、松代町の場合、まだ初まったという段階にとどまっている現状です。なれない作業に多少の問題はあっても、その収入は大きく家計を助けるもので、出機作業人口は年々増加し、織機の音があちこちに聞かれるようになってきています。

賃金はその人によって違いはあ

るでしょうが月収五千元以上というのは現在農家の収入割合からいっても大きなもので、つい夜おそくまで機械にむかう人も出てきています。



みんな元気です！

正月帰省バス一斉に町内へ

出稼ぎ対策の一つとしてかねてお知らせしてありました正月帰省バスが二十九日を皮切りに三十日三十一日と東京、名古屋、大阪の各方面より続々と町役場前に到着し、出迎えに前日より待ちかねていた家族を喜ばせました。

総数約千四百名といわれる松代町の出稼者の三分の一が、今回この帰省バスを利用し、雪の故郷の正月にかけつけたわけです。約二ヶ月間をそれぞれ他県で暮した人たちは、すっかり元気な姿で家族と共に帰宅する情景に関係者はその成功を喜び合いました。このバスを利用した松代のAさんは「混み合う汽車で正月帰省するの

がいやで、つい帰らなかつたものですが、今年はこのバスを利用したお陰で、大して混みもせず、しかも乗っている人がみんな松代の人ばかりなので、バスの中でもまるで家へ帰った様な気持ちで楽しく、大した疲れも感じられなかつたほどです。大変良い計画なので、毎年ぜひこれを行ってもらいたいし、できたら、帰りの時(職場へ戻る時)もせめて直江津あたりまで車の心配をしてもらえたら大変有難いと考えます。」

と語っておられました。尚町では正月中の道路確保の計画をたて、ブルトーザーの配車を行い、三日と五日の三日間にわた

にあたりました。又このことは各方面からも多くの関心をもたれているだけに、今年も同乗の報道陣がNHKを初め多く、係も配車に大奮でした。バス道路の確保は県及び町で全力をつくしてその後も除雪にあたりました。

今年の災害は……

共済事業報告まとまる 先程、町共済係より昭和四十二年度の共済状況が発表になりました。これによると、共済事業の殆んどが早魃による被害であり、数十年振りに、当地方をおそった早魃の被害がいかに大きいかを物語っています。以下発表された資料をお知らせします。

災害の種類別三割以上被害調

地区別	干 害		水 害		総額いもち		その他の被害		合 計	
	面積	共 減収量	面積	減収量	面積	減収量	面積	減収量	面積	減収量
松 代	914	11.780	186	2.112	549	4.531	485	4.257	2.134	22.078
山 平	694	8.368	176	2.214	255	2.624	115	1.155	1.240	14.361
奴奈川	314	3.421	125	1.438	233	2.065	97	918	769	7.842
合 計	1.922	22.967	487	5.764	1.037	9.220	697	6.330	4.143	44.281
割 合 (面積)	46%	52%	12%	13%	25%	21%	17%	14%	100%	100%

4 2 産水稻

戸籍手数料が
一月一日から変更
従来の法が改正になり戸籍手数料が「四十円」から「五十円」になりました。間違いないように願います。

部落公民館めぐり

(一)

〔蒲生部落公民館の巻〕

かねてよりその必要性を大きくうたわれて来ましたが、町内各部落の公民館活動はすでにお伝えしてきましたが、今回より各部落公民館めぐりを計画して、その実際運営と活動を紹介することになりました。

蒲生公民館は現在の建物は民家を買収し、内部改造を行ったもので木造二階建延四四・三三坪でその内部は階下では湯呑所、調理室会議室(約百名収容)、階下は小会議室、物置となり、実際活動は大いに利用されています。

部落の集会は殆んどこゝで行なわれ、一般集會も定例的に開かれる、老人クラブ、婦人学級、青年学級等、又特別な講座、講習会にもその利用度は極めて高く、建物は部落になくはならない存在として各方面よりみとめられています。

又公民館活動は部落の婦人会や青年団を中心に、生活改善にのり出し、本質的な部落作りの根本的なものを採り求め、その解決策に力をそまいでいます。先ず農休日のある方の検討から、部落のレクリエーションの持ち方、部落に伝わる民芸の保存、古文書等の発見と整理などに市広い活動を取上げ八月の部落体育大会を子ども会中心に、盆踊りを郷土民芸保存も兼ねて盛大にするなど、又青年団にも力を入れて後継者たる者への体力作りと組織作りには大きな成果をおさめています。

学級などの開設は月一回の婦人学級、夏場の月二回以上の青年学級、月一回の老人クラブの開設、その他学校教育の重要性を考え、町教育委員会、小学校と共同で家庭教育学級の開設運営にも努めています。また農業改善事業にとともなう特別な講演会などを開催し、成人教育へも積極的な動きをみせています。(館長 山岸秀司氏)

中学卒業生の進路

希望は……

近年青少年の人口流出が大きな話題になって折柄、町内中学生の卒業後の動向は注目される所です。

この程中学卒業生の進路希望を町内各中学校に依頼し、まとめてみました。これによると進学率は四七・五五%、就職率は四二・三二%、入家率は一〇・一四%となり年々減少する入家希望者の実態がこゝにもあらわれています。

昭和三十六年頃にみられた、就職率六〇%は順次、進学率の増加に移行しているようです。尚その進路希望は次の通りになります。

町内中学校寄宿舎の現状は

大きく動く世層の中で、教育の問題だけは別ということはありません。年々減少している学童、生徒の数は、学校教育の中にも大きな問題を投げかけ、各方面からその考え方や方法を論じられています。松代町も早くよりその問題に取り組み、山間地としてどうしても忘れることの出来ない、いくつかの問題解決への努力を行ってきています。

その一つとして冬期間における生徒の通学問題があります。小学校区の場合殆んど通学可能(内には冬季分校設置されているところもある)ですが、中学校区になりますと通学不可能な地域も出てき古くから町内には寄宿舎を設置してある学校がありました。

現在、松代中学校、孟地中学校、山平中学校の三ヶ校に寄宿舎があり、松代中学では下山・池之畑・小屋丸・池尻の生徒が、孟地中学では海老・滝沢・東山・片桐山・中子、山平中学では筋平・小貫の生徒がそれぞれ入舎し生活しています。

町当局及び教育委員会では年々

◎昭和42 12 中学卒業生進路希望

松代中学校	進学	就職	入家
清水	五四	三六	四
孟地	一六	二九	四
山平	四〇	三三	二
奴奈川	二五	二〇	八
計	一三六	一一一	二九

これを昭和四十年にくらべてみますと、次の表に示めされた通りです。

卒業年	進学	就職	入家
昭和40年	四一	二二	二四
昭和42年	二八	一三	二九

尚就職希望者はほとんど県外で県内希望は二五名となっていますこれは十二月の希望ですので春先までには変更もあると思えます。

その改善を図るべく予算を計上、その設備に努めています。本年も孟地中学校の寄宿舎に設備備品購入として二〇万円を計上し、内部整備を図りました。主に食堂などで寄宿生から大変好評をばくしています。【写真！孟地中学寄宿舎食堂風景】



老人クラブを作ろう

老境に入った仲間同志が集って楽しみながら世の移り変りにあうような自分達の在り方について、語り合い、考え合い、より有意義な生活を送るためにと各地で老人クラブが結成されております。

松代町には既に十八クラブ二十一部落が結成し、それぞれ地域にかなった活動をやっております。農繁期の終りに老人だけが集って酒を飲みながら歌ったり踊ったりするところもあれば、ふんばつして温泉地へ慰安旅行するクラブもあります。老人クラブで盆踊り総参加を決めたり、敬老の日に福引大会をやったところもあります。新しい歌古い歌をならっているクラブもあります。また年をとっても若い者に負けないようにと、知名人の講演を聞いて勉強しているところもあります。

松代町には六十才以上の方が約千四百六十人おられますが、そのうち三分の二以上の千人が老人クラブに入っております。残りの約四百六十人十八部落の方が加入されておりますが、できるだけ早い機会に老人クラブを作って全員が加入されることを希望します。老人クラブには一ヶ月千五百円前後の助成金が役場から出ます。

人数は五十人前後が理想ですが、少人数のところは隣接部落同志が共同で作ったり、既に作ってある部落の仲間に入れてもらうことも一つの方法だと思えます。地域的にどうしても五十人程度まとまらないところは少人数でも止むを得ないと思えます。

出稼先へ故郷の便りを：

町内学校便りも紹介

遠くはなれた出稼先へ、便りを出すということは、大切な留守家庭の一つの仕事になってきている。昨今、各学校でもそれぞれ文集などを作成、学区内の出稼者に発送し大変喜ばれております。

町でも出稼組合で各学校に依頼し、生徒、児童の作文を募集、文集「雪の故郷」を作成し発送してきました。

春先帰宅した人たちから、ぜひ今年もこれを続けていただきたい本当に楽しみだという声が多く、婦人会などでも、文集計画をたっているところが多くなってきました。これからの数ヶ月間、各家庭でも是非「便りの交換」を行ってくださる様お願いいたします。

お父さんへ

二年生 高橋久代(勸平)

お父さん、お元気ですか。久代も元気です。こちらのほうは、八日ごろから十日の間に雪がふりました。わたしは、おとうさんからながみがくると、まっさきによみます。だっておとうさんのてがみは、ひらがなばかりでわたしでもよめます。おとうさんもあったかいでしょうが、わたしもあたまかいいです。

わたしはこたつでべんきようをしています。おとうさんはあたまかいしごとですね。おかあさんはいしやくすりをのんでいますがねてはいません。おとうさん、こちらのことは、しんばいしないはたらいてください。さようなら

スノーボートを利用しよう

積雪時の救急用に役場では次の部落にスノーボート(舟の形をしたソリ)を配置してあります。配置してある部落ばかりでなく、隣接部落も利用して下さい。保管の責任は区長さんですので利用する時は配置してある部落の区長さんに連絡の上使用して下さい。

寺田、蒲生、小屋丸、会沢、犬伏、千年、田沢、蓬平、仙納、室野(診療所)、峠、福島、役場、芋島。

文芸

しづみ新年俳句会

- 初詣ではや山門の人通り。 佐藤 悠歩
- 津幡 竜峰
- かたことの口真似上手初笑い。 佐藤 紅茶
- 初日まだ見えぬ八海雲走る。 古島 六花
- 雪庇し遊ぶ雀や松の内。 齊木 淡水
- 歳神に捧ぐ万両紅濃ゆし。 村山 枯水
- 雪落つ灯のやわらかく初詣。 村山 芳朗
- 初禱りや輪ゴムの音も小気味よし。 齊藤 文雄

関谷 立石

- 二メートル越す新雪で年迎う。 齊木 木心
- 大晦日降りて元朝粉吹雪。 松浦 五郎
- 日記果つこの一年も悔い多し。 米持 善一
- 元朝やまず東の窓開ける。 佐藤 静風
- 懐かしき君も来たかや初詣。 関 静 府
- 注連染めて剣銀つ手元陽の澄み。 関 静 府

さわらび十二月歌会高点歌

- 異なれる思想を持ちてとつぎたる名古屋の妹(いも)にもそばを送らむ。 本山 祖道
- 齊藤 文雄

- 自(し)が主張あくまでまげぬ人。 高橋 芳平
- 対ひわが合づちの何ぞ虚しき。 高橋 芳平
- 里紅葉鮮かなるを愛でにつつ登りし山はすでに朽ち初む。 山岸 徳枝
- 帰郷する夫や吾子らを思ひつつ。 井上 ヨイ
- 正月魚釘につるせり。 井上 ヨイ
- 勤めよりまだ帰り来ぬ吾が子をば今宵待ちつつわびしき夕餉。 高橋 修次
- 娘らが括けて帰りし白菊の香り。 武田 美津
- ただよぶ我が枕辺に。 武田 美津
- よごれいる円き鍋ぶた洗いで煮立ち押える時を思へり。 山本 清
- 郷里の友の集ひにさそわれて一人の我は涙おぼゆる。 山本 清